

函館市医療・介護連携推進協議会
多職種連携研修作業部会 第10回会議

日時：令和元年10月1日（火）19：00～

場所：函館市医師会病院 5階講堂

【次第】

1 開 会

2 議 事

○報告事項

- (1) 平成31年度 多職種連携研修計画 実施報告
- (2) センターホームページ「コラム」の掲載について
- (3) 研修情報の一元化と提供について

○協議事項

- (1) 意見交換会について
- (2) 平成31年度 函館市医療・介護連携多職種研修会について

3 その他

- (1) 次回の部会日程について

4 閉 会

【配付資料】

- 1 報告事項
- 2 協議事項
- 3 平成31年度 多職種連携研修計画
- 4 ホームページ上で掲載した研修情報一覧（平成31年4月～令和元年8月）
- 5 『多職種による意見交換会に関する調査』用紙
- 6 『多職種による意見交換会に関する調査』調査まとめ
- 7 平成31年度 函館市医療・介護連携多職種研修会（案）
- 8 タイムテーブル
- 9 グループワーク素案

函館市医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修作業部会
第10回会議 出席者名簿

※★…部会長および副部会長 ○…幹事

(敬称略)

分野	所属団体	氏名	勤務先等
医療	公益社団法人 函館市医師会	○佐藤 静	函館市医療・介護連携支援センター
	一般社団法人 函館歯科医師会	川村 曜補	カワムラ歯科クリニック
	一般社団法人 函館薬剤師会	★副部会長 水越 英通	(株)はこだて調剤薬局(昭和店)
	公益社団法人 北海道看護協会 道南南支部	伊藤 玲子	医療法人雄心会 函館新都市病院
	道南在宅ケア研究会	川口 篤也 ※欠席	医療法人道南勤労者医療協会 函館稜北病院 副院長
	函館地域医療連携実務者協議会	船山 俊介 ※欠席	社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院 法人内・法人外連携推進担当課長
	一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会 南支部	阿部 綾子	医療法人社団 函館脳神経外科病院
	北海道柔道整復師会函館ブロック	山本 康文	山本整骨院
	函館鍼灸マッサージ師連絡協議会	益井 基	益井東洋治療院
介護	函館市居宅介護支援事業所連絡協議会	渡部 良仁	居宅介護支援事業所 アニー
	函館市地域包括支援センター連絡協議会	京谷 佳子	函館市地域包括支援センター ゆのかわ
	函館市訪問リハビリテーション連絡協議会	★部会長 寺田 昌弘	社会医療法人仁生会 西堀病院
	道南訪問看護ステーション連絡協議会	白川 直子	社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院 在宅療養支援室 訪問看護係
	道南地区老人福祉施設協議会	齋藤 禎史	特別養護老人ホーム シンフォニー

○報告事項

(1) 平成31年度 多職種連携研修計画 実施報告(資料3)

ア 医療関係者向け研修会

テーマ：介護サービスの概要と役割(医療との連携)

講師：医療法人社団函館脳神経外科指定居宅介護支援事業所
管理者・主任介護支援専門員 宮城 智美 様

参加者：令和元年5月30日(函館新都市病院) 76名(院内43名, 院外33名)
令和元年8月23日(函館渡辺病院) 78名(院内53名, 院外25名)
令和2年2月 (函館市医師会病院)

イ 介護関係者向け研修会

テーマ：正しい病院のかかり方(医療介護連携編)

講師：社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院
法人内・法人外連携推進担当課長 船山 俊介 様

参加者：令和元年5月28日 199名
令和元年8月20日 134名
令和2年2月

ウ オープンカンファレンス

令和元年8月22日(函館中央病院) 138名(院内34名, 院外104名)

エ 函館市医療・介護連携『施設看取り研修会』

日時：令和元年9月25日(水) 19:00~20:00 ※予定

場所：函館競輪場テレシアター

内容：函館市内の施設による看取りケア事例の報告

医療法人大庚会 グループホーム街

管理者・計画作成者 生田 友希 様

地域密着型特定施設 介護付有料老人ホーム 白ゆり乃木

生活相談員 大黒 玲央奈 様

参加者：施設関係者及び協力医療機関の医師等 定員300名

オ 『はこだて入退院支援連携ガイド』を活用した研修会(退院支援分科会主催)

日時：令和元年10月10日(木) 18:30~20:00 ※予定

場所：函館市医師会病院 5階講堂

内容：グループワーク

「事例をもとにガイドを活用し適切な連携の在り方」を考える

参加者：50名

(ケアマネジャー・包括職員・訪問看護師・退院支援看護師・MSW・病棟看護師等)

カ 『入退院支援連携強化研修会』（情報共有ツール作業部会主催）

第1回目

日 時：令和元年7月11日（木） 15：00～17：00

場 所：函館市医師会病院 5階講堂

内 容：○はこだて医療・介護連携サマリー説明

○講演

「急性期病院における入退院支援に必要な情報共有の内容やタイミングについて」

講師：函館中央病院 退院支援看護師 奥山 ちどり 様

○グループワーク

「入退院支援の中で、急変時病院と協働して（利用者さんのために）できること」

参加者：45名

（東部・東央部第1・東央部第2 圏域内の地域包括支援センター職員，居宅介護支援事業所ケアマネジャー，小規模多機能型居宅介護の職員，看護小規模多機能型居宅介護の職員等）

第2回目

日 時：令和元年9月11日（水） 15：00～17：00

場 所：函館市医師会病院 5階講堂

内 容：上記同様

参加者：50名

（西部・中央部第1・中央部第2 圏域内圏域内の地域包括支援センター職員，居宅介護支援事業所ケアマネジャー，小規模多機能型居宅介護の職員，看護小規模多機能型居宅介護の職員等）

キ 『急変時対応研修会』

開催にむけて協議中

ク 函館市における多職種連携への理解の促進（出張講座の実施）

公益社団法人北海道看護協会 道南南支部主催 『看護管理者懇談会』

日 時：令和元年9月7日（土） 13：30～15：00

場 所：函館五島軒 本店

参加者：60名（道南南・道南北地区の看護管理者）

ケ センター主催研修会への見学参加（出前講座の実施）

令和元年6月17日（月） 北海道教育大学函館校

令和元年7月29日（月） 学校法人西野学園 臨床福祉専門学校

（2）センターホームページ「コラム」の掲載について

令和元年9月～掲載予定

『施設医・在宅医・病院医～それぞれの立場からの看取り～』

（3）研修情報一元化と提供について（資料4）

平成31年4月～令和元年8月掲載分

他団体主催・共催 20件

その他

参考情報提供 1件

センター主催・共催 6件

合計 27件

○協議事項

(1) 意見交換会について (資料 5, 6)

ア 調査結果報告

イ 今後の予定

(2) 平成 31 年度 函館市医療・介護連携多職種研修会について (資料 7, 8, 9)

ア 内容

イ 役割分担

【平成31年度 多職種連携研修計画】

目的（テーマ）	内 容	形 式				定 員	時 期
		規模（会場）	形 態	対象者	レベル		
(1) 相互理解の促進	① 医療関係者向け研修 『介護サービスの概要と役割（医療との連携）』 講師：医療法人社団函館脳神経外科指定居宅介護支援事業所 管理者・主任介護支援専門員 宮城 智美 様	中規模	座学講義	医療関係者	初級～中級	100名程度	5月 8月 2月
	② 介護関係者向け研修 『正しい病院のかかり方（医療介護連携編）』 講師：社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院 法人内・法人外連携推進担当課長 船山 俊介 様	中規模 （テレシアター）	座学講義	介護関係者	初級～中級	100名程度	5月 8月 2月
	③ オープンカンファレンス 『多職種による症例の振り返りと共有』	中規模	対話体験（事例報告）	医療・介護関係者	初級～上級	100名程度	随時
	④ 意見交換会 ※各団体への調査実施	未定	未定	未定	未定	未定	未定
(2) 連携強化	⑤ 看取り 1) 大規模研修会 『それぞれの場所での多職種による看取りの実際』 2) 施設看取りへの支援 『施設等での看取りケアの好取組事例報告』	大規模 （国際ホテル） 中規模 （テレシアター）	対話体験（シンポジウム・GW） 座学講義	混合 介護関係者	中級～上級 中級～上級	300名以上 100名程度	11月30日 9月
	⑥ 入退院支援 「はこだて入退院支援連携ガイド」活用促進 「はこだて医療・介護連携サマリー」活用促進 ※各団体・各機関との共催 ※退院支援分科会・情報共有ツール作業部会との協働	小規模	対話体験（事例検討・GW）	実務者	中級～上級	30名程度	未定
	⑦ 急変時対応 『高齢者の急変から病院受診（救急搬送）の事例報告』	中規模	対話体験（シンポジウム）	医療・介護関係者	中級～上級	100名程度	3月予定
(3) 多職種連携の 専門性の向上	⑧ 函館市における多職種連携への理解の促進 ※各団体・各機関との共催 ※出張講座メニュー（別紙）	小規模	座学講義 講師：センター職員	医療・介護関係者	初級～中級	30名程度	随時
(4) 人材育成	⑨ センター主催研修会への見学参加 ※各医療・介護系の学校への案内	随時	見学・座学講義	医療・介護学生 （教員）	未経験者	数名	随時

ホームページ上で掲載した研修情報一覧（平成31年4月～令和元年8月）

月	研修名称（団体名）	件数
4月	函館消化器病懇談会 『高齢者への慢性便秘症診療を切り拓く』 (国立病院機構 函館病院)	2件
	第9回 ICNJ北海道支部 道南ブロック研修会 『尿路感染対策 ～介護（ケア）する側・される側の立場から～』 (日本感染管理ネットワーク北海道支部 支部長)	
5月	地域がん診療連携拠点病院講習会 『胃癌の薬物療法』 『胃癌で死なないために』 (市立函館病院)	4件
	第23回 呼吸ケア研修会 『チームで取り組む呼吸リハビリテーション』 (道南呼吸ケア研究会)	
	函館緩和ケアセミナー 『疼痛管理を目指した薬剤師による地域連携』 『がんサバイバーに対する循環器サポートと緩和ケア～Cardio-Oncologyの現状と今後の課題～』 (函館五稜郭病院)	
	2019年度南渡島地域包括緩和ケアネットワーク 会員総会並びに第13回定例会 『木古内・福島・松前の緩和ケア・在宅ケアの事情について』 (南渡島地域包括緩和ケアネットワーク)	
6月	国立病院機構函館病院 第40回 緩和ケア勉強会 『緩和ケアにおける口腔ケア』 (国立病院機構函館病院)	6件
	令和元年度 北海道介護福祉士会道南支部第1回研修会 『いまさら聞けない介護職と看護職のキモチ…』 (北海道介護福祉士会道南支部)	
	令和元年函館市地域ケア全体会議 民生委員とケアマネジャーのための勉強会 『つながる支援の輪』 (保健福祉部地域包括ケア推進課)	
	第11回 函館五稜郭病院 緩和ケア研修会 『がん性疼痛等の身体症状及び精神症状に対する 緩和ケア・コミュニケーションに関する講義、ワークショップ、ロールプレイ等』 (函館五稜郭病院)	
	道南在宅ケア研究会 第50回定例会・会員総会 『サ高住で診る ～がん患者難民を防ぐために～』 (道南在宅ケア研究会)	
	第148回 国立函館病院合同教育講座 『ロボット手術の現状と今後の動向 ～われわれの診療にどう影響するか？～』 (国立病院機構函館病院)	
7月	第36回 函館五稜郭病院がんサバイバーボード 『院内の各チームからの報告』 『領域別がんサバイバーボードからの報告』 『乳腺がんサバイバーボードからの症例報告』 (函館五稜郭病院)	3件
	五稜郭病院感染対策セミナー 『自分自身を護るための感染対策』 (函館五稜郭病院)	
	第78回 五稜郭セミナー 『リウマチ治療に必要な感染症の知識～安全に治療を行うために～』 (函館五稜郭病院)	
8月	第150回 国立函館病院合同教育講座 『肺癌早期発見に向けて ～現状と将来～』 (国立病院機構函館病院)	5件
	2019年度 実践講座「医療同意と意思決定支援」 『医療同意と意思決定支援における諸問題』 『人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインについて』 (北海道医療ソーシャルワーカー協会)	
	日本死の臨床研究会北海道支部 秋の研究会 『がんと共に歩む力を ～安心して心開ける第3の居場所』 (道南在宅ケア研究会)	
	認知症市民講座 認知症を見つめなおす 『認知症の人と家族を支える地域づくりに向けて』 『知って安心！楽しく学ぼう認知症 ～MC I、高齢者てんかんも学ぼう～』 (道南認知症疾患医療連携協議会)	
	Care Do 北海道 2019 『地域で暮らし続けるための生活・療養支援』 他 (Care Do 北海道)	
合計		20件
(その他)	参考情報提供（函館市外の研修情報）	1件
	函館市医療・介護連携支援センター 主催・共催研修会	6件

多職種による意見交換会に関する調査

団体名【】

担当者名【】

①貴団体主催または共催で、他団体や他職種とのグループワーク等を含めた意見交換会を実施されたことはありますか？

ある（→②へ） ない（→③へ）

②ある場合は、いつ頃どここの団体とどのような内容（テーマ）で実施されましたか？

	いつ	どこの団体と	どのようなテーマで
例	H30. 1	薬剤師会	各職種紹介, 認知症患者に対する対応や残薬について
1			
2			
3			
4			
5			

③ない場合、今後貴団体主催または共催で実施したいと考えていますか？

はい いいえ

④他団体や他職種との意見交換会の実施についてセンターに希望することはありますか？

ある（→⑤へ） ない

⑤ある場合、具体的にお知らせください。

例) 各団体や各職種の窓口となる担当者を教えてほしい。
どのように意見交換会を実施したらよいかわからないので教えてほしい。

【多職種による意見交換会に関する調査まとめ】

○調査対象団体～24団体（協議会参加団体12団体、その他の団体12団体）

○他団体や他職種と意見交換（交流等）のない団体～12団体／24団体
・そのうち、意見交換会開催を希望している団体～10団体／12団体

○センターからの介入を希望する団体～12団体／24団体

①各団体の窓口を教えてください（鍼灸・老施協・歯科衛生士会）

②HPを活用した意見交換会の案内掲載（老健協）

③具体的なマッチング

道南訪問看護ステーション連絡協議会→医師会（開業医）

北海道グループホーム協会→医療機関

北海道作業療法士会 道南支部→函館市デイサービス・訪問入浴連絡協議会
→函館市訪問リハビリテーション連絡協議会

※その他、要望や必要性があった時のつなぎ

④単一の団体同士ではなく、多団体（医療⇔介護）での開催希望

第5回 函館市医療・介護連携多職種研修会（案）

日 時：令和元年11月30日（土） 14：00～17：00

場 所：国際ホテル 2階 天平

対象者：医療・介護関係者，定員360名（最大GW240名＋聴講席120名）

《参集方法》

①協議会参加団体（医師会，看護協会，在研，函医連，MSW協会，居宅連協，包括連協，訪リハ連協，訪看連協，老施協）

→各団体を通さずに，センターから各医療機関・介護保険事業所等の多職種に向けて案内文を配布し，所属する機関等から参加申し込みをする。

②協議会参加団体（歯科医師会・薬剤師会・柔整・函鍼連）

→各団体を通して，会員にむけて参集依頼する。

※歯科衛生士会については，歯科医師会員への案内文から参加申し込みする。

③その他（老健協，GH協会，ヘルパー連協，デイ協，介護福祉士会，栄養士会，理学療法士会，作業療法士会，言語聴覚士会）

→所属する各医療機関・介護保険事業所等に配布している案内文から参加申し込みが可能である旨を各団体長から会員へ周知していただく。

④教育機関（聴講席のみ）

→各機関へ

⑤行政（聴講席のみ）

→各機関へ

懇親会：国際ホテル（会費制3,500円程度，17：30～19：00）

テーマ：「地域での看取りを知る～多職種の視点からみた看取りの実際～」（仮）

目 的：①シンポジウムによるそれぞれの場所，多職種による看取りの現状と課題を知る

②グループワークによる相互理解の促進

③研修会後の懇親会の開催

構 成：シンポジウム，グループワーク，発表（意見交換）

※資料8：タイムテーブル参照

○シンポジウム（座長：選定中）

①施設看取り (20分間)

社会福祉法人 函館カリタスの園 旭ヶ岡の家 介護老人福祉施設
生活相談室 主任 南部 雄一 様

②在宅看取り (20分間)

株式会社ケア・スキル ヘルパーステーション笑福
ケア管理者・サービス提供責任者 山口 瑞穂 様

③病院看取り (20分間)

市立函館病院
病棟副看護師長 沖崎 香代子 様

○グループワーク：多職種で実施。最大30テーブル（8人掛け） (60分間)

<テーマ>

- ・今までの経験をふまえてのシンポジウムの感想
- ・シンポジストに確認したいこと

<進め方>

※資料9：グループワーク素案参照

<必要物品>

- ・2人ワーク用付箋（人数分），模造紙（各テーブル1枚），ボールペン（人数分），マジック（各テーブル1本）

○意見交換会 (25分間)

※座長

- ・GW発表～3G
- ・発表はテーブルで行う
- ・シンポジストと会場参加者（聴講席含む）との意見交換

<総評>

(15分間)

- ・各シンポジストと座長から総評いただく

※意見交換会と総評の時間配分は座長にお任せする

役割分担 ※開会・閉会の挨拶はそれぞれ医師会長・副会長に依頼予定

総合司会～寺田部会長

サブ司会～益井メンバー

懇親会司会～山本メンバー

シンポジウム座長～選定中

受付～センター職員，医師会病院職員
ファシリテーター～多職種研修作業部会メンバー
会場案内～センター職員，医師会病院職員
会場準備～センター職員，医師会病院職員
マイク・PC等～センター職員

今後の予定

8/30	コア会議
9/1～	研修部会メンバーへの発信 (歯科・薬剤師・柔整・鍼灸へ参加依頼人数確認)
9/中旬	シンポジスト打ち合わせ (依頼文書提出)，座長決定
9/下旬	案内文の発送 (歯科・薬剤師・柔整・鍼灸の団長宛てに参加者推薦依頼の発送)
10/1	第10回 研修作業部会
10/31	参加申し込み (GW，聴講席) 締め切り
11/上旬	最終座長，シンポジスト打ち合わせ
11/中旬	資料等準備開始，ファシリテーター打ち合わせ

タイムテーブル

令和元年11月30日（土） 午後2時～午後5時（開場 午後1時30分）

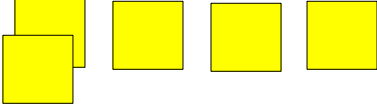
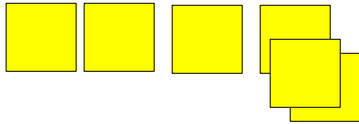
時刻	タイトル	主な講師	分類	時間	司会
13:30	開場	サブ司会		—	司会…寺田部会長（※サブ司会 益井メンバー）
14:00	開会挨拶／趣旨説明	司会 本間会長	他	5分	
14:05	シンポジウム開始／座長挨拶	座長 ()	講演	5分	
14:10	シンポジウム①	講師 ()	講演	20分	
14:30	シンポジウム②	講師 ()	講演	20分	
14:50	シンポジウム③	講師 ()	講演	20分	
15:10	休憩	司会	他	10分	
15:20	グループワーク説明	サブ司会	他	5分	
15:25	グループワーク	司会	演習	50分	
16:15	グループワーク発表・意見交換	座長 講師	演習	25分	
16:40	総評	座長 講師	他	15分	
16:55	閉会挨拶／アンケート依頼／懇親会案内	司会 恩村副会長	他	5分	
17:00	アンケート記入，会場移動（懇親会出席者）	—	他	—	
小計				180分	
17:30	懇親会	懇親会司会		90分	
19:00	（終了）				
合計				270分	

グループワーク素案

- 最大30テーブル（8人掛け） 240名程度
- 多職種でのメンバー構成。各グループに司会者をあらかじめ設定する
- テーマ ①今までの経験をふまえてのシンポジウムの感想
②シンポジストに確認したいこと
- タイムスケジュール

15:20 (5分)	<p><グループワーク説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの流れ，時間配分，注意点等・司会の説明 ・ファシリテーターの説明
15:25 (5分)	<p><テーマ①について二人ワーク開始></p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣同士で簡単な自己紹介 ・①についてそれぞれの思いを報告しあい，メモ用紙（付箋）に一つずつ記入していく
15:30 (25分)	<p><テーマ①についてグループ内での共有></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ全体での自己紹介 ・書記と発表者を決定 ・司会者の進行のもとに二人組での意見をそれぞれ発表し，記入した付箋を模造紙に貼り付けながらグループ内で共有する ・書記は同じような意見をまとめたり，追加で出た意見等を追記していき，最終的にグループとしてのまとめを箇条書きで記入する
15:55 (5分)	<p><テーマ②について二人ワーク></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ①での二人ワークと反対隣りの人で行う ・②について意見を出し，付箋に一つずつ記入していく
16:00 (15分)	<p><テーマ②についてグループ内での共有></p> <ul style="list-style-type: none"> ・司会者の進行のもとに二人組での意見をそれぞれ発表し，記入した付箋を模造紙に貼り付けながらグループ内で共有する ・書記は同じような意見をまとめたり，追加で出た意見等を追記していき，最終的にグループとしてのまとめを箇条書きで記入する <p>※テーマ②のグループワーク開始後，事務局（センター職員）が各ファシリテーターのもとにテーマ①の発表推薦グループの確認にまわります。その後，座長と協議して発表グループを3グループ選定します。</p>
16:15	終了

○ 模造紙イメージ

<p>① 今までの経験をふまえてのシンポジウムの感想</p> 	<p>② シンポジストに確認したいこと</p> 
<p>① まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> • ~~~~~ • ~~~~~ • ~~~~~ • ~~~~~ • ~~~~~ 	<p>② まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> • ~~~~~ • ~~~~~ • ~~~~~ • ~~~~~ • ~~~~~

○ ファシリテーターの役割

【グループワークのねらい】

- 現在，函館で行われている看取りの現状を知る。
- 自分の所属機関・種別以外での看取りの現状を知る。
- それぞれの場所での看取り場面における今後の問題点や取り組み，自職種（自分たち）ができる事，できている事の気づきを得る。（同様に他職種ができる事，できている事についても）
- 多職種による発想や気づきの違いを知る。

【注意点】

2人ワーク，全体でのグループワークで発言が止まってしまっていたり，スムーズに進行できていないグループがあれば，下記のようなヒントを出しながら発言を促していく。

<テーマ①>

- 看取りを経験している職種，していない職種に関わらず，シンポジウムを聞いての率直な感想を引き出す。
- 看取り経験があるメンバーであれば，その実際。良かったこと，困ったこと，後日談などあれば……。その際，看取りの場所を意識した発言で。
- 看取り経験がないメンバーであれば，自職種として看取り場面に関わるとしたら，どういう事ができるか，どうしていくべきかなど。（看取り場面を広く，看取り判断～エンドステージまでとしてとらえても可。）
- 自分の所属する機関・種別以外での看取りの現状に関して思う事。
- 看取り場面における函館市の課題の共有。
- 看取りの経験にとらわれず，職種や勤務場所をイメージしながら発言を促す。

<テーマ②>

- こんなこと聞いて良いのか？と思うようなことでも発言の機会をもってもらおう。
- 知らない事を知るための研修会であることを伝える。
- シンポジウム，グループワークテーマ①をふまえて，疑問点や確認したいことを整理する。
- 個別ケースの話題というよりは，函館市・病院・施設・在宅といった大きな枠組みの中での看取り場面として捉え，その中での質問事項とする。
- 制度的な事や倫理的な事柄など。

【発表グループの選定】

- まとめ①のみの発表。まとめ②については挙手制とする。
- 受け持つグループ（2～3テーブル/1人）の模造紙のまとめ①部分を確認。
- ねらいにそったまとめ①ができているグループや，ぜひ全体で共有したいと思われるまとめ①ができているグループなどを受け持つグループから1テーブル程度選定してもらおう。
- グループワーク②開始後，事務局（センター職員）が各ファシリテーターのもとに確認にいきますので，選定したグループと理由を報告してください。
- 事務局は選定したグループをさらに座長と協議して3グループに絞ります。
- 発表は①のみ3グループ。②に関しては全体での自主的な挙手制で行います。
- ②の挙手が出ない場合は，各ファシリテーターから促しや指名をお願いします。